

春三月、 諸の卿大夫等の、 難波に下る時の
歌二首 并せて短歌

一七四七番

白雲の 竜田の山の 滝の上の 小桜の嶺に 咲
きををる 桜の花は 山高み 風し止まねば
春雨の 継ぎてし降れば ほつ枝は 散り過ぎに
けり 下枝に 残れる花は しましくは 散りな
まがひそ 草枕 旅行く君が 帰り来るまで

反歌

一七四八番

我が行きは 七日は過ぎじ 竜田彦 ゆめこの花
を 風にな散らし